

緑化樹として需要の増大している山採り主体の樹種における生産技術の確立

【研究概要】

近年の都市緑化では、アオダモ、ナツハゼなどの山採り主体の樹種の利用が増えている。しかし、この樹種の中には、生産者圃場での生育不良がみられる樹種や需要増加のために苗木の入手が困難な樹種もある。そこで、樹種の安定生産のための繁殖技術や栽培技術を確立するとともに、生産に適した優良母樹を選抜することを目的に試験を実施した。その中で、今年度は下記の成果が得られた。

- (1) 夏期のビニルハウス内の緑枝挿しにおいて、スプリンクラー散水を活用した環境制御手法を確立した。ミスト噴霧を行うハウスとの間で発根率の比較を行った。
- (2) アオダモ等5樹種で、接ぎ木繁殖による活着率を調査した。